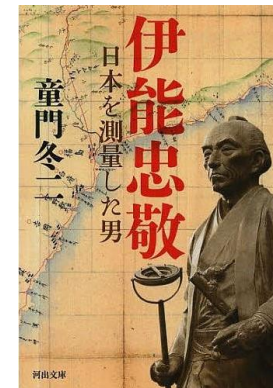


おすすめの本

「伊能忠敬 日本を測量した男」 河出書房新社 童門冬二 2014年2月

〔青春生涯〕1994.5三笠書房 「伊能忠敬 青春生涯」1996.6学陽書房人物文庫

ロリケン
2020.3.30
青位



★おすすめポイント

伊能忠敬といえば50歳を過ぎて隠居してから測量で偉業を達成したことで有名であるが、むしろ隠居するまでの考え方、行動、生き方が、管理者、経営者の目線からみて非常に興味深い。

幼少期・少年期：

複雑な家庭環境のなかで生まれた世界観
・他人がどう思おうと自分にとっては大きな問題ではない

婿養子で名主となる：

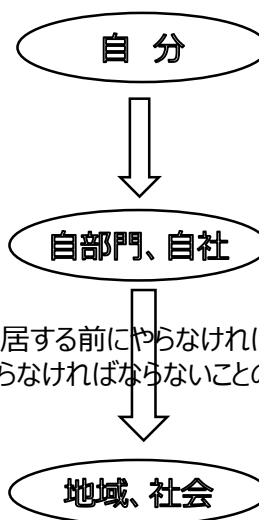
周囲の信頼がないなか、お家建て直し(財政、家の格)という役割。
しきたりを知らない、知ろうとしない自分を反省
→記録による実証主義 (科学的、合理的判断)
世界はバランスで成り立っている。
→不整合をどう整合していくかという政治力が必要
必要なら名字帯刀のため付け届け、俗事にも取り組む
全体の幸福向上のため一歩ずつ行動、嫌なことからまず解決する

伊能家だけにとどまらず地域共同体のリーダー：

天明の大飢饉・領主が無能なら代わって自分が何とかしなければならない
無理難題に誠意と知恵で応える
・剰余金を非常支出の積立金に、それを役人に認めさせたのは日頃からの誠実さ
・問屋公認・運上・冥加金に関する勘定奉行所との協議での戦略性

隠居～大プロジェクトの実行

隠居後の成功のためには、隠居する前の準備が必要



- 第1章 朔風に立つ
- 第2章 自己の使命に“本分”を尽くす
- 第3章 新しい“自分”の発見
- 第4章 事業家、指導者として大成
- 第5章 新たな出発
- 第6章 壮大なる“ライフワーク”の実現

公的な仕事に対する義務感、パブリックサーバント
ボランティアでなく本務として行う

困窮農民・市民に米や銭を貸し与えることは恵みでなく、地域が共同して持っている資源を分かち合うこと。自分(村方後見役)は地域資源の預かり人にすぎない。リーダーである自分の役割は地域共同体の一員としての信頼感を住民に意識させること。それは権威でなく自覚と責任に基づいた行動規範を自ら示すことが必要。非常時には地域を守ってくれる。